釜石市郷土資料館展示リニューアル整備に係る委託業者選考に関するプロポーサル審査委員会　結果概要

釜石市郷土資料館は市民から寄贈された多くの資料を活用し、釜石の歴史化、自然資源を総合的に紹介する施設です。近年、増加しつつある、海外からの来訪者に釜石の歴史や文化、自然資源の魅力をわかりやすく伝え、周遊観光者の増加につなげるため、資料などの解説文をインバウンド向けに多言語化を目的とした当該事業への選定結果を次により公表します。

審査委員会開催状況

１　日時　2026 年 10 月 8 日（火）　14：00～15：30

２　場所　釜石市市民交流センター　2 階会議室

３　出席委員　5 名

４　承認基準

各審査員の採点合計で 60 点以上を審査委員会として承認し、より点数の高い業者を選定するものとする。

５　審査基準　別紙

審査結果

【申請業者】

ＮＴＴ東日本株式会社岩手支社、川嶋印刷株式会社三陸営業所

【選定業者】

申請のあった 2 事業者の審査を踏まえ、第 1 受託候補者に川嶋印刷株式会社三陸営業所を、第 2 受託候補者にＮＴＴ東日本株式会社岩手支社に選定する。

【審査委員会に置ける質疑応答】[(Q)：委員、(A)提案業者]

[ＮＴＴ東日本株式会社岩手支社]

(Q)デジタル中心の手法だが、既存展示物の取扱いは?

(A)現在の展示物・造作は活かす。パネルをとパテーションを変える。パネルは情報構造化してわかりやすく伝える。

(Q)映像展示資料は、そのままか?

(A)現在の展示を維持しつつ、デジタルを活用してより分かりやすく補足し拡充する。

(Q)鳥瞰図などは所有者が分かれているものも一体化して展示できるか?
(A)デジタル化で資料を一括し展示する。拡大図でより詳細に見て知ることができる。

(Q)学習室のようなものを設置してもらえるか?
(A)スペース活用の上ではまだ余地があると思っている。

(Q)地元の小中学生に対する学びの可能性にどのようにつなげていくのか?
(A)学習用タブレットでQRコードによる自ら深く学ぶ体験ができる。今目の前にある資料に加えて、自分でより深い情報を調べることができる体験は今の子供にとって重要であると考える。

(Q)QRコードを活用した解説の仕組みは可能か?作業風景や使い方を伝えるとか保存されることがデジタル化に一番望まれていると考えているがいかがか?
(A)可能である。伝統芸能や技術・民具の使い方等、動画等のコンテンツを活用して、現物と昔の暮らしを手元のタブレットやスマートフォンで結び付けることで、より学びを深める伝え方を提供できる。

(Q)言語について、5か国語以上の多言語など柔軟な対応は可能か?
(A)可能である。どこまでやるかは今後協議していきたい。

(Q)来館者増に係るターゲットは想定されているか?
(A)社として海外向けの探求学習プログラムに力を入れている。アメリカの学生を対象としたプログラムも実践している。釜石の魅力を発信していくためのプログラムの構築は可能。

[川嶋印刷株式会社三陸営業所]
(Q)現施設の課題をいかに把握しているか?
(A)情報と展示内容の整理、集約、取捨選択と、段差・壁面等の構造上の課題を抱えているものと整理。

(Q)多言語化を大きな目的としているリニューアルだが、どのような来館者を想定し、ターゲットをイメージしているか?
(A)多言語化を図る中ではあるが、地域の方々に適切な情報を伝えることが大切だと思っている。その上乗せ分として外国人向けの多言語化を行う。

(Q)地域と共にあるべき施設。少子化が進む中、郷土資料館で学ぶことの重要性を伝えたい。学びを発展していくための学習室の配置は可能か?

(A)館内スタンプラリーを提案に含んでいるが、子供たちに学んでほしい部分にスポットをあてたもの。学ぶきっかけとしてほしい。学習室は現状の図書コーナーをうまく使い学習できる環境をつくりたい。

(Q)リーフレット 10,000 部作成との計画であるが、配布予定先は?また、大人向け、子供向けに分けて作成すべきと思うがいかがか?

(A)市内の主要施設、近隣の公共施設に幅広く配布、配置したい。大人向け、子供向けの指摘については製作上の問題は無いので参考にしたい。

(Q)消防車等の既存展示物の説明はパネル化に加え、動画的なものなど、デジタルを活用した説明は可能か?
(A)動画コンテンツの作成は問題ないが、システム障害発生時の対応等、いかに運用していくかが課題。運用については協議が必要と思う。

(Q)名称変更も含めてインパクトのあるエントランス部分の整備が必要と思っている。
(A)エントランス部分については協議しながら進めていきたい。出来れば外から変わった形にしたい。